

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702602
法人名	有限会社 星の里
事業所名	グループホーム星ヶ丘
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘三丁目5番21号 (電話) 093 - 617 - 4808

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(平成20年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤	3人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨プレハブ造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000～30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)18,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	550 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	6名	男性	4名	女性	2名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 77.5歳	最低	66歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月中央病院 / かつき脳外科整形外科 / 黒崎整形外科医院 / あかま歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム星ヶ丘は、緑が多い新興住宅地に位置し、大型ショッピングセンターや市民センターも近郊にあり、利便性が高い環境にある。運営は理念である「家族と思い、思われる」ケアやサービスの提供を目指している。6人の入居者という条件もあり、フットワークも軽く、天候や入居者の状態により、入居者が買い物や外食・散歩を楽しんでいただけるように取り組んでいる。今年度はこれまでの地域連携の取り組みを活かし理念に反映させ、入居者が地域の一員として暮らすことを新たに掲げ取り組んでいる。市民センターで開催される「ふれあい昼食会」には毎月全員で参加し、夏祭りや草取りなどの参加も行き、地域との関係を大切にしたい関係づくりに取り組んでいる。最近は開設5年目を迎え、地域の方からも相談を受けたり、空き状況を聞かれたり、着実にグループホームとして地域に根付いてきている。今後は更に地域の認知症ケアの理解や啓発に取り組まれることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査の改善点では アセスメントの充実 理念における地域との関係づくり 嗜好を取り入れた食事の充実などが挙げられ、アセスメントや理念の見直し、食事を更に楽しんでいただくための工夫など積極的に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を振り返り、認知症に関して、精神科医との連携が重要であると認識し連携を図るなど、積極的に課題を把握し取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。グループホーム活動報告を行い、意見交換を行っている。今後は更に運営推進会議の機会を活かし、認知症ケアの勉強会など、地域包括支援センターとの連携のもと地域への情報発信が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や行事の際に家族の意見や意向を把握するように努めている。また、苦情などがあつた場合は、迅速に対応できるように苦情対応マニュアルを作成し取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の行事である夏祭りに協賛・参加したり、自治会活動である草取りに参加している。また、子ども110番の家の指定を受け、地域の安心・安全のための役割を担っている。毎月1回、市民センターの「ふれあい昼食会」に入居者全員参加し、地域との交流・ふれあいを高め、地域との関係づくりに努力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初の理念を見直し、入居者が地域の中で「自分らしく、自律した生活」を送ることができるように、地域密着型サービスの主旨・意義をふまえ独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用の際には、理念の説明を行い、2ヶ月に1回のミーティングでは、理念の確認をしている。また、ホーム内に理念を掲示し、日々のケアを通じて、理念に基づいたケアが提供できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事である夏祭りに協賛・参加したり、自治会活動である草取りに参加している。また、子ども110番の家の指定を受け、地域の安全・安心のための役割を担っている。毎月1回、市民センターの「ふれあい昼食会」に入居者全員で参加し、地域との交流・ふれあいを高め、地域の関係づくりに努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善点は積極的に改善している。自己評価についても、日々のケアを振り返り、精神科医との連携を図るなど、積極的に課題を把握し取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。グループホームの活動報告を行い、意見交換を行っている。今後は更に運営推進会議の機会を活かし、認知症ケアの勉強会など、地域包括支援センターとの連携のもと地域への情報発信が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに入居の相談や他グループホームのケアやサービスに関して参考となる事例を教えてくださいなど、気軽に相談できる関係を築いている。今後は更なる連携により、地域に向けて認知症ケアの理解を高めることが期待される。また、生活保護課との連携も図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、入居者1名が財産保全サービスを利用し、関係者が毎月1回訪れている。管理者は外部の研修や自己学習を通じて、制度の利用に対応できるように努めている。日々のケアやサービス提供で職員への制度の理解が課題となっている。職員の認知症ケアの一貫として制度の理解をすすめることが求められる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や行事の際に家族の意見や意向の把握に努めている。また、月末の請求書送付の際にホームでの暮らしぶりがわかるように写真を同封したり、電話で報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際に家族の意見や意向を把握するように努めている。また、苦情などがあった場合は迅速に対応できるように苦情対応マニュアルを作成し取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんどない状態を保っている。管理者は、職員が働きやすい環境を整えたいとシフトの希望・健康管理・親睦会開催など、不満やストレスをためないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用は特に制限はなく、管理者は職員の能力が発揮できるように充実した勤務ができるように「報告・連絡・相談」を徹底し、入居者支援の働きやすい環境づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	ホーム内のわかりやすい場所に入居者の権利を掲示し、職員への周知も図っている。管理者自身も研修を通じて人権に関して学ぶ機会を得ている。今後は職員の研修の機会充実が求められる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	管理者は研修の多様な機会をとらえ受講している。職員への伝達研修も行っているが、職員の働く意欲や能力向上のために職員の研修充実が求められる。研修の報告書に回覧記録が求められる。		職員の体制上、研修時間が中々取れにくい状況にあるが、職員の新たな発見や意欲を高めるために研修参加が望まれる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	年1～2回、近郊の事業所と話し合いの機会を持ち、情報交換を行い、ネットワーク化を図っている。今後はネットワークを活かし、他事業所との連携により、認知症ケアの理解を育む活動を期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	相談から入居に至るまで見学を行い、入居者の状態に応じて、「お試し期間」を設け、入居者がなじんでいただけるように取り組み、本人・家族・ホームの3者が合意したところで入居としている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中では、入居者ができること(新聞取り・花の水やり・モップをかける・配膳・皮むき・洗濯物たたみ・散歩の誘導)など行っていただき、入居者と職員が共に役割を担いながら生活できるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者一人ひとりの思いや希望を把握するために努めている。アセスメントにセンター方式を採用し、家族にこれまでの生活歴などお聞きし把握するように努めている。更なるアセスメント情報の充実を期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画は関係者と話し合いながら立てており、チームで情報を共有化しながら日々のケアやサービスが提供できるように取り組んでいる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	日々の介護経過・記録により、介護計画の見直しを行っている。短期目標に対し、どこまで取り組めたか、確認する必要があり、短期目標の達成度に着目した見直しが求められる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者や家族の意向にそって、特に外出に力を入れている。入居者6人の利点を活かし、外食やおやつをはじめ、外出の機会を多く持つように努めている。近郊の介護付有料老人ホームとの連携により、週1回はレクリエーションと食事で出向き、ホームに閉じこもらない暮らしを支援している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	基本的には入居者・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関により、訪問歯科医が週1回、ホームの主治医・看護師が週1回の往診を行っている。精神科医との連携も確保でき、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ターミナルケアは、協力医療機関に口頭で了解を得ており、看取りの方針を設定している。実際の取り組みとしては準備段階にある。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	運営規定や契約書に秘密保持やプライバシーに関する内容を定め掲示している。職員は人権に重点をおき、言葉かけやプライバシーを損ねないように対応を徹底している。書類は事務所で保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	共用空間で話したり、テレビを見たり、外出したり、個室でパソコンを使ったりと入居者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら本人が心地よいと思える過ごし方を支援している。外出は一人ひとりの希望に応じて柔軟に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	献立は食生活改善推進員でもある職員が立て、毎日の食事を楽しみにしていただけるように入居者の好みに配慮し提供している。入居者は状態に応じて、片付けなどできる範囲で手伝っていただけるように取り組んでいる。また、月2～3回は外食を楽しんでいただいている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回を基本とし、夏はシャワー浴を行っている。一人ひとりの希望に応じた入浴は経営上、厳しい状況のため、取り入れてははいない。入浴を拒む場合は、精神状態をみてタイミングをみながら促す努力をしている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の暮らしの中で、洗濯物干し・たたみ・食器拭き・新聞取りなど入居者のできることや得意なことを把握した上で支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課としての散歩・買い物・四季折々のドライブなど、季節感を感じていただき、楽しんでいただけるように取り組んでいる。週1回の介護付有料老人ホームのレクリエーションや食事参加は入居者の楽しみとなっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	基本的に鍵をかけないケアを実践している。居室は希望に応じて中から鍵をかけることができ、プライバシーに配慮した支援を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回消防署の立ち合いのもと避難訓練を実施している。近隣住民の方には緊急時の協力をその都度お願いしている。今後は、入居者の重度化に備え、地域の住民の協力・参加を得て、避難訓練を行う体制づくりが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	職員に食生活推進員があり、栄養バランス・カロリーをふまえた献立が作成されている。栄養摂取量は1300～1500calを基準に提供している。水分は1300ccを基本に10時と3時のおやつに必ず飲み物を提供し確保できるように努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	民家改造の特徴を活かし、共用空間は6人の入居者がゆったりとソファにくつろげるように工夫されている。2階への階段入り口にはカーテンを設置し、適正な室温が保たれるように支援し、入居者が快適に過ごせるように努めている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の居室は、全て日当たりがよく、開放的でなじみの物が持ち込まれ、安心して過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			